



音楽朗読劇

「借りた風景」

～明子さんの被爆ピアノ、その記憶とともに～

第二次世界大戦で生き残った実在する3つの楽器
今を生きる架空の音楽家の視点で、それらの楽器が歩んできた歴史とその記憶が語られる
楽器は、モノは、持ち主の手を、かつてあった場所を記憶しているのだろうか…

被爆80周年の広島で、戦争と平和、避難と追放の歴史に思いを馳せる

Message 「明子さんのピアノ」から

お話：二口とみゑ（HOPEプロジェクト代表）

音楽朗読劇「借りた風景」 脚本：タウフゴルト 作曲：藤倉大（日本語上演）

Narratorio "Borrowed Landscape" Script: tauchgold Music: Dai Fujikura (Performed in Japanese)

ヴァイオリン：北田 千尋（広島交響楽団コンサートマスター）

コントラバス：エディクソン・ルイス（ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団）

ピアノ：小菅 優

朗読：大山 大輔、多和田 さち子、西名 みずほ、日高 徹郎

*「明子さんの被爆ピアノ」によって演奏される場面が一部分あります。

2025年 2月16日(日) 15:00開演 | 広島女学院中学高等学校
(14:30開場) ゲーンズホール

全席自由席
3,500円

カジモト・イープラス www.kajimotoeplus.com 050-3185-6728（オペレーター対応 10:00～18:00）
e+（イープラス） <https://eplus.jp/>

主催：一般社団法人 HOPEプロジェクト 制作：KAJIMOTO

協力：広島交響楽協会、広島女学院中学高等学校、広島テレビ 助成：（公財）ヒロシマ平和創造基金「ヒロシマピースグラント」

後援：広島県、広島市、広島県教育委員会、広島市教育委員会、広島女学院同窓会、朝日新聞広島総局、中国新聞社

音楽朗読劇「借りた風景」

Narratorio "Borrowed Landscape"

ラジオ放送初演(ドイツ語上演):2022年6月18日(ドイツ / ドイツランドフランク)

舞台初演(英語上演):2023年11月8日(ニューヨーク / ノグチミュージアム)

■脚本: タウフゴルト Script: tauchgold

ドイツを拠点にハイケ・タウフ(Heike Tauch)とフロリアン・ゴルトベルク(Florian Goldberg)によるユニットで、ラジオ、舞台のフィールドで社会風刺、歴史ドラマ、哲学的な内容をテーマとした作品を手掛けてきた。

■作曲: 藤倉大 Music: Dai Fujikura

15歳で単身渡英しJ.ベンジャミンらに師事。1998年セロツキ国際作曲コンクールに当時最年少で優勝したのをはじめ、これまでに数々の作曲賞を受賞。国際的な委嘱を手掛け、NHKなどテレビ番組への楽曲提供も多数手がける。

■翻訳: 中村真人(協力: 那須田 瑛)

ドイツ ラジオ放送初演
予告動画

※映像中、小菅優(ピアノ)のみが
今回公演出演メンバーです。



第二次世界大戦中、ブダペストの地下室に何年も閉じ込められていたヴァイオリンの名器ストラディヴァリウス。

1939年、ポーランドからイスラエルの地に逃れる際に置き去りにされたコントラバス。

広島原爆で若い持ち主を失い、沈黙したピアノ(「明子さんのピアノ」)。21世紀初頭、これらの楽器は再発見され、新たな音楽的な命が吹き込まれた。

3つの楽器の史実を土台としながら、今を生きる3人の架空の音楽家の視点を通じて、これらの楽器が歩んできた歴史とその記憶が語られる。虚構と現実が混在しながら、戦争と平和、避難と追放、そして人びとに美と相互理解をもたらす芸術の意義という普遍的な主題を問いかける。

本作の脚本家、タウフゴルトはこう語る。

「数百年にわたり弾き継がれ、戦争や平和の時代を乗り越えてきたヴァイオリンがあります。ヴァイオリニストは寄贈者から楽器を借りているだけでなく、いつか返却するときまで、ある意味で時間を借りているといえます。つまり、楽器は演奏者を単なる現在から、音楽的、政治的、社会的な歴史へと広げるのです」

タウフゴルトは、借景で知られる京都の圓通寺を訪れたときの強い印象から、本作を『借りた風景』と名付けた。

演奏

ヴァイオリン



北田 千尋
広島交響楽団
コンサートマスター

コントラバス



エディクソン・ルイス
ベルリン・フィルハーモニー
管弦楽団

ピアノ



小菅 優

朗読



大山 大輔
(バリトン歌手・役者)



多和田 さち子
(朗読者・Reading Notte代表)



西名 みずほ
(広島テレビ放送アナウンサー)



日高 徹郎
(朗読者・Reading Notte)

明子さんの
被爆ピアノとは

1926年アメリカBaldwin社製。ロサンゼルスで生まれた河本明子さんが愛用し、1933年一家と共に広島へ。1945年8月6日 原爆投下。学徒動員作業中に明子さんは被爆し、翌7日夕方「急性放射能障害」のため19歳の生涯を閉じました。ピアノも爆風により、多くのガラス破片で傷つきました。2005年8月、調律師 坂井原浩氏による困難な修復作業により、被爆60周年平和祈念「被爆ピアノ・チャリティーコンサート」にて美しい音を響かせました。以来、あの日の出来事を現在へ伝える貴重な「被爆遺品」として平和の調べを奏でています。このピアノは一般社団法人 HOPEプロジェクトが所有し、広島市平和記念公園レストハウスにて保管・展示しています。



撮影: 中奥岳生

広島女学院中学高等学校 ゲーンズホール

〒730-0014 広島県広島市中区上幟町11-32

アクセス

広島バス「女学院中高」停留所下車 徒歩約1分 / JR「広島駅」下車 徒歩約12分

広島電鉄「女学院前」電停下車 徒歩約3分 / 広島電鉄「八丁堀」電停下車 徒歩約10分

◆会場には駐車場がありませんので、ご来場には公共交通機関をご利用ください。

*やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる可能性があります。出演者変更等に伴う払い戻しはいたしませんので、予めご了承ください。

*未就学児のご入場はご遠慮いただいております。

イラスト: 日下明 チラシデザイン: iroha音楽企画 Photo: Takehiro Goto(小菅 優)、Yoshinobu Fukaya(大山 大輔)